

English Cafe

英語や英語圏の文化に気軽に触れてもらうことを目的として、国際文化交流学科およびグローバルセンターが共催しEnglish Cafeを開催しています。

◆10月29日「ハロウィンイベント」

地域の方々、学生、教職員を含め26名の参加者が、直径約30センチの本物のかぼちゃをくり抜いて、かぼちゃのキャンドル台「ジャックオーランタン」を制作しました。表情豊かなかぼちゃたちに火を灯し、ハロウィンの雰囲気を味わいました。制作後は英語でハロウィンの起源や歴史などの説明を聞いた後、仮装やお化けなどハロウィンに関する会話を楽しみました。



◆12月12日「クリスマスイベント」

生活学科食物栄養専攻が開発した三朝神倉大豆のおからを使用したケーキを各自がデコレーションしました。レヴィ先生がおからやレシピについて英語で紹介した後、ケーキを食べたりクリスマスに関する話題を英語で話したりと、ひとあし早いクリスマスパーティーを楽しみました。



サント・トーマス大学訪問

1月13日、グローバルセンター 荒川満枝センター長がフィリピン共和国マニラにあるサント・トーマス大学 セヴィラ副学部長へ表敬訪問を行いました。2017年11月に両大学間で学術協定を締結後、学生が互いの大学を訪問するなど交流を深めてきました。今後も両大学の学生が看護の知識を深める機会を提供していきます。

●大学見学会

9月以降、「鳥取行政相談委員協議会中部支部」(14名)、「鳥取県議会議員久友会」(9名)、「北栄町国坂浜自治会」(14名)の方々から鳥取看護大学、鳥取短期大学、絳美術館・研究室の見学にいらっしゃいました。グローバルセンターでは、大学見学を随時承っています。お気軽にお問い合わせください。

鳥取短期大学 絳研究室 研究生募集

鳥取短期大学絳研究室では、伝統工芸「倉吉絳」の技術を習得する社会人向けの養成講座を開催しています。
 開講期間：令和2年4月から翌年3月までの1年間
 毎週火・木曜日 9:30～16:30
 定員：10名程度
 募集期間：令和2年3月2日(月)～3月31日(火)
 ※消印有効

絳研究室 修了作品展開催

令和元年度絳研究室修了生の作品展を開催します。
 期間：3月27日(金)～3月29日(日)
 10:00～17:00
 会場：倉吉博物館(倉吉市仲ノ町3445-8)
 入館料：無料
 ※修了作品展以外の常設展示を観覧する場合は、別途入館料が必要です。
 展示品：着物、袋物、テーブルセンターなど

グローバルセンターをご利用下さい

鳥取看護大学・鳥取短期大学では、個人・団体による大学見学会、講演会講師の依頼、大学の施設利用や教員の専門分野に関するご相談などに随時対応しています。
 詳しくはグローバルセンターまでお問い合わせ下さい。

<発行> 鳥取看護大学・鳥取短期大学グローバルセンター 〒682-8555 鳥取県倉吉市福庭854
 TEL:0858-27-0107 FAX:0858-26-9138 E-mail:glocal@ns.cygnus.ac.jp

<印刷> 有限会社 矢積印刷 倉吉市宮川町2-36



とっとりプラットフォーム5+aの取組み

鳥取県内の高等教育および地域の更なる活性化の推進を目的に、県内の5つの高等教育機関、自治体および経済・医療福祉団体 計15団体で組織された「とっとりプラットフォーム5+a」は、形成から3年目を迎えています。さまざまな取組みの中から、今年度の主な取組内容をご紹介します。

プラットフォームHP https://www.cygnus.ac.jp/t_platform/index.php

地域リスクマネジメント体制強化の取組み

消防防災サークル「ToCoToN FAST」*が1日消防隊に任命されました!

11月8日、消防防災サークル「ToCoToN FAST」が倉吉消防署から1日消防隊に任命され、同署の消防士の皆さんの協力のもと、キャンパス内で防災訓練を実施しました。防災訓練では、担架・ストレッチャーの使い方のデモンストレーション、はしご車を使用した避難訓練、屋内消火栓を使った放水訓練、電気火災実験・防災実験を行いました。屋内消火栓はいざというときに、消防車の到着を待たず、近くにいる人が使用することができる設備で、放水を体験した学生は水圧の強さに驚いていました。

*「ToCoToN FAST (Tottori College & Tottori College of Nursing Fire And Safety Team)」:
 鳥取看護大学・鳥取短期大学の学生による防災意識の向上を目的とした消防防災サークル



防災士養成研修の受講料補助

鳥取県の自主防災組織率の向上を目的として、防災士*の養成に力を入れています。プラットフォームでは、県内高等教育機関の学生を対象に、防災士養成研修の受講料を全額補助しました。今年度は4校の学生計29名が受講し、うち20名が防災士試験に合格しました。

*防災士：特定非営利活動法人日本防災士機構による民間資格。同機構が定めたカリキュラムや試験等を受講・パスすることで、防災に関する一定の知識・技能を身につけたことが証明される。



こども食堂の見学

プラットフォームでは、学生による地域貢献活動の展開として、こども食堂におけるボランティア活動を推進しています。活動の第一歩として、学生たちがこども食堂への理解を深め、つながりづくりの場となることを目指して県内東・中・西部のこども食堂7カ所を対象に見学会を企画しました。11月から12月にかけて本学および鳥取大学、公立鳥取環境大学、米子工業高等専門学校より35名の学生が希望するこども食堂に参加し、こどもたちや地域の方々、主催者の方々と交流する中で運営の様子を体験しました。



共同FD・SD*研修会

9月17日、シグナスホール大講義室において、弁護士法人TNLAW鈴木・曾我法律事務所の曾我紀厚弁護士を講師としてお招きし「業務をめぐる多様なリスクと危機管理について～クレーム対応、個人情報管理、不祥事等～」と題して研修会を開催しました。

当日は、プラットフォーム参画団体の教職員や一般の方など118名の参加がありました。講演では、クレームや個人情報漏洩、不祥事に対応する際は民事、刑事、行政処分、社会からの印象・評判という4つの側面から責任・影響が発生することを念頭に置くことが重要であり、それを踏まえた上で、実務の面でどのように対応すべきか、具体的な解説がありました。参加者からは「普段の業務に密接にかかわることについて、裁判例を見ながら理解を深めることができ良かった」などご感想をいただき、大変有意義な研修会となりました。

*FD：(Faculty Developmentの略) 教員の教育能力開発 SD：(Staff Developmentの略) 教職員の職能開発

第13回 鳥取短期大学講演会を開催



11月10日、シグナスホール大講義室にて、第13回鳥取短期大学講演会を開催し、保護者の方や地域の方々など、約240名が参加されました。

この講演会は、本学学生の保護者で組織された鳥取短期大学後援会が主催したもので、「令和」の改元と日本文化」をテーマに、皇室や元号研究の第一人者として著名な京都産業大学ところいさお 所 功 名誉教授を講師にお招きしました。

当日は、元号の大切さや新元号に込められた意味についてご講演いただき、倉吉市出身の光格天皇のご生

母 大江磐代君や、漢学者 森本角蔵氏についても解説されました。講演の後半には即位パレード「祝賀御列の儀」の生中継を参加者全員で観覧し、お祝いムードに包まれ閉会しました。

参加者からは、「新しい時代の幕開けにふさわしい内容だった。自分の生き方を考えることができた」「難しいテーマかと思っていたが、ユーモアを交えながらわかりやすくお話しされ、とても有意義な講演だった」「パレード中継を所先生や大勢の参加者と一緒に視聴できて記念になった」などの感想が寄せられました。

コレクション宅配便

12月10日、本学シグナスホール1階アリーナにて、鳥取県立博物館主催の「コレクション宅配便」を開催しました。この事業は、同館のコレクションをより多くの方に身近な場所で鑑賞してもらうために実施されています。

鳥取看護大学・鳥取短期大学は、令和元年7月23日に鳥取県教育委員会と協定を締結し、その一環として、県立博物館と連携し、同館や県立美術館（令和6年度開館予定）を学びの場として活用したり、将来的には学生が運営側に参画したりできるように取組みを進めています。

この協定を機に実現した今回の事業では、学生対象の鑑賞授業の後、会場を一般開放して、地域の方にも鑑賞していただきました。授業では学生約40名、一般開放では地域の方・本学教職員合わせて、約60名の参加がありました。



まちの保健室

鳥取看護大学を会場として、毎月第3水曜日に開催する「まちの保健室（拠点型）」には、毎回20～30人の地域の皆さんがお越しになっています。身長・体重・体脂肪・血圧・骨密度・血管年齢などの計測や健康相談に加え、毎月、教員や各分野の専門家、時には学生たちが健康に関するテーマでミニ講話を行い、大変好評を得ています。12月には、「みんなで楽しく歌いましょう」と題して鳥取短期大学名誉教授の白石由美子先生によるミニ講話があり、「里の秋」「月の砂漠」「ふるさと」などの懐かしい歌を一緒に歌いました。



高校生がまちの保健室に参加

高大連携の取組みの一つとして、高校生が「まちの保健室」を体験しました。今年度は12名の高校生が夏休みや休日を利用して、鳥取看護大学や地域で開催された「まちの保健室」に参加し、血圧・体脂肪・骨密度等の計測の様子を見学したり、ゆったりと利用者の話に耳を傾けるなどして交流を図りました。地元で行われている「まちの保健室」に参加することで、看護の仕事への理解を深めると同時に、地域社会における健康づくり活動を学ぶ良い機会になったことと思います。



地域へはばたく学生を PICK UP!

サンタボランティア

サンタボランティアとは、生活困窮や障がいを持った子どものいる家庭などにプレゼントとともに夢を与え、自己肯定感を育むための活動です。この活動は全国各地で行われ、倉吉市では倉吉市社会福祉協議会がチャリティサンタ*と連携することで実現しています。今年は12月24日に、地域の方々とともに学生7名・グローバルセンター職員2名が「サンタ」と「サンタのサポート役」となり、家庭を訪問しプレゼントを渡しました。

*チャリティサンタ：2008年からサンタクロースを通じた社会貢献活動を行っているNPO法人

学生インタビュー

●国際文化交流学科1年 Q. 当日は何をしましたか？

さわえ ちひろ 澤江 千裕くん 各家庭を訪問して子どもたちにプレゼントを渡しました。その際、事前に保護者の方からお聞きした「子どもたちが頑張ったこと・これから頑張ってください」を伝えました。事前講習会で、子どもに対して「〇〇しないとダメ」といったマイナスの表現を使わないよう説明があり、その点も気がつけました。

Q. 大変だったことはありますか？

何かトラブルがあっても子どもたちの夢を壊さないよう、サンタになりきることが大変でした。例えばプレゼントには子どもの名前が書かれたシールが貼ってあり、袋の中でそれ



をはがして渡すのですが、つい慌てて、普段の口調が出そうになりました（苦笑）。

Q. 活動して学んだことを教えてください。

とっさのハプニングにも対応できる「アドリブ力」を身に着けることができました。今回の経験を、今後の日常生活や、就職活動にも活かしていきたいです。

●幼児教育保育学科2年

よしだ なつみさん よしおか さほ はせがわ まりな 吉田 なつみさん 吉岡 紗穂さん 長谷川 満里奈さん

Q. 参加しようと思った理由を教えてください。

吉田：私が小学生の時、クリスマスの日に家にサンタが来てくれたことがあり、とても嬉しかったです。今度は自分が子どもたちを喜ばせたいと思い参加しました。

Q. サポートサンタとしてどんなことをしましたか？

長谷川：帽子やトナカイのカチューシャを身に着けて、サンタと一緒に各家庭を訪問しました。

吉田：私も同じですが、サンタがプレゼントを忘れるハプニングがあり、そのときには慌てて走って取ってきました。

Q. 心がけたことはありますか？

吉岡：終始笑顔でいるように心がけましたが、子どもたちが喜んで顔をみると、こちら自然と笑顔になりました。

Q. 参加した感想を教えてください。

吉岡：私たち3人とも、短大卒業後は保育士として働くので、子どもと接することはたくさんありますが、今回のように一軒一軒のお宅を訪問することはなかなか無いと思います。学生の今だからこそできた経験だったと思います。

学生議会

10月16日、鳥取県議会において、県内の大学生、短大生、高専生が議員役となり、平井伸治知事をはじめ野川聡副知事、関係部局長に質問や意見を述べる「学生議会」が行われ、鳥取看護大学と鳥取短期大学からはそれぞれ2名の学生が参加しました。



学生インタビュー

●国際文化交流学科2年 Q. 質問の内容とその理由を教えてください。

まつもと ゆうへい 松本 悠平くん インバウンドと韓国との交流について質問しました。特別研究でインバウンドについて研究していたのですが、先生のアドバイスで、自分も行ったことのある韓国についても絡めて考えました。僕は生まれも育ちも鳥取で、いずれ韓国からだけでなく、世界中の人が訪れる鳥取県になって欲しいです。

Q. 大変だったことはありますか？

大学祭実行委員を務めていて、学生議会と並行してその業務を行うのが大変でした。大学祭の3日前に学生議会があり、その頃はとても忙しかったです（苦笑）。また、9月に担当議員と質問内容について打ち合わせを行うことがあったのですが、普段議員の方と接する機会がないので、とても緊張しました。

Q. 学生議会に参加した感想を教えてください。

日常生活で、議員の方と接する機会はほとんど無いと思いますが、身近に感じられる良い機会でした。また、今回質問をするにあたって、普段の学習よりさらに深く勉強する良いきっかけになりました。